

平成27年第2回広島市スポーツ推進審議会における意見等及び計画見直し案

推進施策等(抜粋)	委員の意見(要旨)	計画見直し案(抜粋)	見直しの根拠等				
第1章 計画の策定に当たって 4 計画の見直し		この計画は、計画策定から5年が経過し、中間年に当たる平成27年度に、計画の進捗状況の検証、市民意識調査結果の分析及びスポーツを取り巻く環境の変化等を踏まえて見直しを実施するものです。 この計画の見直しは、次の視点により行っています。 (中略) (3) 障害者スポーツの競技力向上 東京2020パラリンピック競技大会を控え、障害者スポーツに対する市民意識が高まっていることから、競技団体等と連携して、素質・能力のある選手の発掘・育成を推進するとともに、障害者スポーツ指導員の養成や競技団体の組織化など体制整備を図り、競技力向上につながる取組を行います。 なお、平成23年3月に策定したこの計画は、既にスポーツ基本法の理念を盛り込んでおり、同法の制定に伴う見直しは文言の変更のみとなっています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害者スポーツの競技力向上に係る取組を新たに盛り込むことから、見直しの視点に記載することとする。 				
第2章 計画策定の背景 2 広島市のスポーツの現状	◎ 平成23年の計画策定時の数値等が掲載されているが、国体の成績やトップス広島の観戦者数等分かるものは新しい数値を掲載した方がよい。	(表10の下段に次の文言を加える。) ※ 「第2章 計画策定の背景」に掲載している表及び図について、計画の見直し時点の数値等に修正したものを巻末の「資料編」に掲載しています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2章は、計画策定の背景を述べており、表及び図はその根拠資料として掲載しているため、第2章に最新の数値を掲載できない。このため、巻末の「資料編」に最新の数値等に更新した表及び図を掲載することとし、このことについて、第2章の最後に注釈を加える。 				
第3章 基本理念とその実現に向けて 2 基本方針及び目標年度の数値目標 (1) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興		(1) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興 市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、それぞれの体力や技術、興味や目的に応じて、気軽にスポーツを楽しむことができるよう、市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供と環境づくり、健康づくり・体力づくりや地域コミュニティの活性化に向けたスポーツの振興などにより、地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興を図ります。 また、「元氣じゃけんひろしま21(第2次)」において、健康寿命の延伸を実現するためには、社会生活を営むための機能を高齢になっても可能な限り維持することが重要であるとされており、高齢世代の健康に焦点を当てた健康寿命の延伸につながる取組を強化します。 <table border="1" data-bbox="1448 1266 2065 1360"> <tr> <td>数値目標①</td> <td>週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を70%以上にします。</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="1448 1398 2065 1493"> <tr> <td>数値目標②</td> <td>30分以上健康のために歩く70歳以上の者の割合を男性66%、女性56%にします。</td> </tr> </table> 注1 広島市市民健康づくり生活習慣調査結果(男性 57.9%、女性 47.9%[平成23年度])に基づき設定しています。 注2 「元氣じゃけんひろしま21(第2次)」では、「30分以上健康のために歩く70歳以上の者の割合の増加」の目標を「平成34年度に男性68%、女性58%」に設定しています。	数値目標①	週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を70%以上にします。	数値目標②	30分以上健康のために歩く70歳以上の者の割合を男性66%、女性56%にします。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「元氣じゃけんひろしま21(第2次)」において、健康寿命の延伸を実現するためには、高齢世代(65歳以上)の健康に焦点を当てた取組を強化する必要があるとされている。今後、健康寿命の延伸に係る取組を強化していくことから、このことに関する目標を新たに設定することとする。数値目標は、同計画の高齢世代の運動に係る目標を引用することとする。
数値目標①	週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を70%以上にします。						
数値目標②	30分以上健康のために歩く70歳以上の者の割合を男性66%、女性56%にします。						
第4章 推進施策 2 施策の内容 (1) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興イ 健康寿命の延伸のための健康づくり・体力づくり	◎ 労働安全衛生法の一部改正により、事業者にストレスチェックが義務付けられたことを踏まえて、企業における健康づくりについて、計画に盛り込むことができないか。	イ 健康寿命の延伸のための健康づくり・体力づくり (ア) ライフステージに応じた健康づくり・体力づくりのための事業等の実施 ○ 市民が日常的にスポーツに取り組む動機付けとなるよう、地域団体や企業のほか健康福祉部局等と連携し、健康増進につながるラジオ体操やシニアのためのウォーキング等の促進に取り組むとともに、通勤等における自転車利用の促進に取り組みます。 ○ 健康づくり・体力づくりに関する情報について、健康福祉部局と連携し、市民や地域団体、企業等に対して広く提供し、その周知を図るとともに、個人やグループがいつでも気軽にスポーツができる環境づくりに取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康寿命の延伸に向けて、高齢世代の健康に焦点を当てた取組を強化する必要があることから、「シニアのための」という文言を盛り込むこととする。 ● 自転車利用の促進について、具体的に記載する。 ● 委員の指摘については、健康福祉部局等と連携して企業等に対して広く周知する健康づくりに関する情報に取り込み対応することとする。 				

推進施策等(抜粋)	委員の意見(要旨)	計画見直し案(抜粋)	見直しの根拠等
(3) 競技力の向上 ア ジュニア選手の育成・強化	◎ この計画を策定したのは5年前であり、具体的な表現も加筆されたので、「将来」という文言を削除してよい。	(ア) ジュニア選手の強化練習・指導の充実 ○ より多くのジュニア選手が、将来、国民体育大会等の全国規模の大会で活躍することができるよう、広島県や競技団体、広島市中学校体育連盟、広島市小学生体育連盟、広島市スポーツ少年団等の関係団体と連携し、小学生から高校生まで計画的に育成する仕組みなど、一貫した指導体制の構築に取り組みます。	● 委員指摘のとおり、この計画期間を考慮すると、計画の半分が経過していることから、「将来」という文言を削除してもよいと思われる。 しかしながら、当該施策の趣旨は、ジュニア選手が、将来的に、成年の世代において、全国規模の大会で活躍できるよう、一貫した指導体制を構築することであるため、「将来」の文言は残すべきと考える。
(4) まちの活力創出に向けたスポーツの振興 ア 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機としたスポーツ振興に関する事業の推進	◎ 東京マラソン等は、多くの参加者がその都市を訪れる日本で指折りのイベントに育っている。広島もそういう土壌を持った地域なので、スポーツツーリズムへの取組ができるのではないか。	(ア) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会出場国・地域の事前合宿の誘致 ○ 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や競技団体等と連携し、ナショナルチームの事前合宿の誘致に取り組みます。誘致に当たっては、 スポーツツーリズムの観点から 、国際大会の実績、トップス広島の存在、平和への取組及び魅力的な観光資源などのアピールポイントを関係機関等と連携して発信するとともに、ボランティアの育成等、受入体制の充実について検討します。	● 今後は、本市においても、国が推進しているスポーツツーリズムの視点を持つ必要があると考え、「スポーツツーリズムの観点から」という文言を盛り込むこととする。
イ 国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致等	◎ 東京マラソン等は、多くの参加者がその都市を訪れる日本で指折りのイベントに育っている。広島もそういう土壌を持った地域なので、スポーツツーリズムへの取組ができるのではないか。 ◎ 東京マラソン等は、多くの参加者がその都市を訪れる日本で指折りのイベントに育っている。広島もそういう土壌を持った地域なので、スポーツツーリズムへの取組ができるのではないか。	(ア) 国際的・全国的なスポーツ大会の誘致 ○ スポーツツーリズムの推進に向けて 、誘致した国際的・全国的なスポーツ大会について、 より多くの市民を始め、市外からも多くの人に観戦に来てもらえるよう 、関係団体等と連携し、積極的なPR活動を行います。 (ウ) 広島開催が定着している国際大会、全国大会に対する支援 ○ ヒロシマ国際ハンドボール大会、Peace Cup 国際交流車いすテニス大会、天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会等の国際大会や全国大会について、参加する選手・役員等に対する受入体制の充実を図るとともに、ホームページや広報紙等において、積極的にPR活動を行い、 より多くの市民を始め、市外からも多くの人に観戦に来てもらえるよう 取り組みます。 また、大会の開催効果がより発揮されるよう、補助金の交付、 ホームページや広報紙によるPR 、 や スポーツボランティアの派遣など必要な支援を行います。 (エ) 市民レベルの全国的なスポーツ大会等の開催・誘致 ○ スポーツツーリズムの推進に向けて 、既存の市民参加型の全国的なスポーツ大会等を調査し、誘致に向けた働きかけとPR活動を展開します。	● 今後は、本市においても、国が推進しているスポーツツーリズムの視点を持つ必要があると考え、それぞれの項目に「スポーツツーリズムの推進に向けて」や「市外からも多くの人に観戦に来てもらえる」という文言を盛り込むこととする。 ● 上段で「ホームページや広報紙等において、積極的にPR活動を行い」という文言を追記したため、下段の同内容の文言は削除する。
ウ トップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興	◎ 東京マラソン等は、多くの参加者がその都市を訪れる日本で指折りのイベントに育っている。広島もそういう土壌を持った地域なので、スポーツツーリズムへの取組ができるのではないか。	(ウ) にぎわいの創出に向けた地元スポーツチームや観光部局等との連携事業の実施 ○ スポーツツーリズムの観点から 、まちのにぎわい創出に向け、観光部局等との連携により、トップス広島を中心とした地元で活躍するスポーツチームを貴重な観光資源として活用した事業を展開するとともに、地元スポーツチームと地元商店街等がタイアップした事業を検討します。 (カ) 民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応した支援 検討 ○ 民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応して必要な支援に取り組みます。 広島県、広島商工会議所等と一体となってサッカースタジアムの整備について検討します。	● 今後は、本市においても、国が推進しているスポーツツーリズムの視点を持つ必要があると考え、「スポーツツーリズムの観点から」の文言を盛り込むこととする。 ● 計画策定時と状況が変化し、現在、サッカースタジアム検討協議会において、広島に相応しいサッカースタジアムの整備について検討されているので、文言を修正することとする。